

近畿厚生局長 殿

滋賀医科大学医学部附属病院
病院長 柏木 稔



滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記



- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科 73.7人	歯科 7人
--------	----------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	212人	133.8人	345.8人	看護補助者	7人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	5.4人	9.4人	理学療法士	9人	臨床検査技師	33人
薬剤師	25人	6人	31.0人	作業療法士	4人	臨床検査衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	14人	2.3人	16.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	513人	49.3人	562.3人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	47人
管理栄養士	5人	4.7人	9.7人	診療放射線技師	27人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	472.7人	6.0人	478.8人
1日当たり平均外来患者数	1,199.0人	46.7人	1,245.7人
1日当たり平均調剤数			987.50剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	126人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	1人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	1人
超音波骨折治療法	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	12人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的骨形成術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	不整脈疾患の遺伝子診断	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要			
DNAシーケンサーを用いて、ブルガタ症候群、ARVCなどの遺伝子診断を行っており、現在では全国各地から診断依頼がある。			
医療技術名	間接カロリメトリーによる炎症性腸疾患の管理	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患では、腸の潰瘍やびらんから出血、蛋白漏出をきたし、食餌摂取不能や消化吸収障害なども加わり、栄養障害をきたす。高カロリー輸液や経腸栄養剤による栄養療法は、栄養管理として有効であるのみならず、特にクローン病では primary therapy として位置づけられている。本法による安静時エネルギー消費量、呼吸症の測定は動的な栄養評価を可能とするものであり、栄養剤の種類や量の選択、また栄養療法の効果判定に有効である。			
医療技術名	サイトカイン測定による急性膵炎・慢性膵炎重症度の判定	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
膵炎の炎症過程においては各種サイトカインが関与している。特に急性膵炎の重症化や多臓器障害への進展には炎症性サイトカインである TNF、IL-6、IL-8が、また慢性膵炎ではその病態の大きな特徴である線維化に TGF β 、PDGF、FGF、IL-1 β 等が関与していると考えられる。我々はこれらのサイトカインが、急性膵炎の重症度や慢性膵炎の線維化の指標の一つとなると考え、これらサイトカインの血中レベルを測定して急性膵炎の重症度や慢性膵炎の線維化の判定を行い、さらに病態解析を行っている。			
医療技術名	炎症性腸疾患における関連遺伝子の検討	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:原因不明の炎症性腸疾患における関連遺伝子をいくつか解析することで、日本人の健常人との差、あるいは潰瘍性大腸炎とクローン病の特異的マーカー、さらに重症度の違いなどを検討し診療への応用を行う。			
医療技術名	炎症性腸疾患におけるMRP4遺伝子多型の解析	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:炎症性腸疾患に使用する免疫調節剤の作用、副作用にはかなりの個人差が存在する。MRP4遺伝子は薬剤の代謝に関与しており、これを解析することで適切な薬剤投与量決定に役立つことが期待される。			
医療技術名	消化管上皮におけるマイクロRNAの網羅的解析	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:消化管上皮では様々なマイクロRNAが存在し、分化に応じて発現が異なる。これを網羅的に解析することで癌化や炎症との関わりを明らかにする。			
医療技術名	脂肪肝の改善を併用した慢性C型肝炎治療の成績向上の試み	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:C型肝炎治療はインターフェロン+リバビリンが主流となっているが、効果は50%にとどまる。C型肝炎患者では脂肪肝も合併しており、脂肪肝に対する治療を併用することでC型肝炎自体の治療効果が改善するかについて検討する。			
医療技術名	炎症性腸疾患における炎症性サイトカインと炎症・発がんマーカーの発現についての検討	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:炎症性腸疾患では炎症をコントロールするだけでなく、長期経過による発癌が問題となっている。サイトカインや炎症・発癌関連の遺伝子を解析することにより炎症の鎮静化や癌化の早期発見につながることを期待される。			
医療技術名	炎症性疾患におけるマイクロRNAの解析	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:炎症性腸疾患の上皮にターゲットを絞って、マイクロRNAを解析することにより、重症度など疾患表現型との関連、薬物治療効果の予測への応用を試みる。			
医療技術名	糖鎖認識タンパク質によるがん診断・治療に関する研究	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
当該医療技術の概要:生体高分子には様々な糖鎖が結合しているが、特に癌化において糖鎖の分布や量が異なってくる。これを認識するタンパク質を解析することでがん診断や癌細胞治療への応用を試みる。			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血液疾患での幼若巨核球による予後解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科)			
<p>血液疾患のなかでも、骨髄異形成症候群や慢性骨髄性白血病では、骨髄中に幼若な巨核球の出現する頻度が高いとされている。特に後者では、幼若巨核球の出現と急性巨核球性白血病への急性転化とに相関関係があるとされており、我々の検討でも骨髄異形成症候群において幼若巨核球が多いほど、急性白血病に移行しやすいことが判明している。このことから、これらの疾患において骨髄中の幼若巨核球を観察することによって、その予後を推測し、早期に治療を開始することが可能となる。患者骨髄穿刺液をBrdUで反応させた後、70%エタノールで固定して組織切片を得る。巨核球のマーカースとして糖蛋白IIIa(GPIIIa)に対するモノクローナル抗体を用い、抗BrdU抗体とともに反応させて免疫染色を行う。骨髄細胞中のBrdU陽性GPIIIa陽性細胞をカウントする。正常では0.5%程度の出現率であるが、慢性骨髄性白血病や骨髄異形成症候群では平均5-7%の出現率となり、全巨核球中BrdU陽性率が高い症例ではとくに白血球への移行が多い。</p>			
医療技術名	CD34陽性血液幹細胞 positive selection による幹細胞移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(血液内科)			
<p>悪性リンパ腫や白血病のみならず、乳癌や精巣腫瘍などの固形癌に対しても自家幹細胞移植併用超大量化学療法の有効性が証明されている。しかし、骨髄や末梢血での自家幹細胞採取には、常に悪性細胞の混入による再発の危険性が指摘されている。また、同種骨髄移植においても、HLA完全一致のドナーが見つからない場合には、GVHDを覚悟のうえ、ミスマッチドナーによる移植を行わざるを得ない場合もある。これに対して、血液幹細胞に対するモノクローナル抗体であるCD34抗体を用いた磁気細胞分離装置で血液幹細胞のみを純化することで、腫瘍細胞の混入を防ぎ、また、同種骨髄移植においてもT細胞除去により、重篤なGVHDを防ぐことが可能である。すでに、成人T細胞性白血病の症例において末梢血幹細胞よりCD34陽性細胞を分離し、腫瘍細胞の混入がないことを確認しており、今後、この手技により、自家幹細胞移植、ミスマッチドナーからの同種骨髄移植における治療成績の飛躍的な向上が期待できる。</p>			
医療技術名	糖尿病患者における持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連の解明	取扱患者数	149人
当該医療技術の概要			
<p>血糖コントロール不良状態では、糖尿病性血管合併症(網膜症・腎症・神経障害・動脈硬化症)の発症率を増悪させることが証明されている。また食後の急峻な血糖上昇は動脈硬化・動脈硬化性疾患の独立した危険因子として確立されている。そのため、血糖日内変動の把握の重要性が提唱されている。しかし、これまで血糖モニターの方法として最も汎用されているのは1日数回程度の自己血糖測定であるが、24時間の血糖コントロールの全容を把握し得なかった。近年、米国で24時間連続的に5分毎の平均血糖値を測定する持続血糖測定器が開発され、日中・夜間を問わず血糖コントロールの全容を把握することが可能となった。持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連を検討し、糖尿病性血管合併症の発症阻止のための新たな治療戦略を構築することが可能となる。</p>			
医療技術名	再発小児固形腫瘍に対する塩酸ノギテカンとイホスファミドの第I/II相臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科)			
<p>再発小児固形腫瘍患者に対し新規薬剤塩酸ノギテカンを含んだ治療を行い、その有効性と安全性を評価する。</p>			
医療技術名	CDAの効果的診断法の確立に関する研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科)			
<p>小児稀少難病疾患であるCDAの実情を把握し、効果的診断法を確立する。当院における該当症例に対し遺伝子診断などを行う。</p>			
医療技術名	甲状腺ホルモン合成障害による先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的診断法確立のための研究	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(小児科)			
<p>新生児マススクリーニングで発見される先天性甲状腺機能低下症は、多数の遺伝子異常により引き起こされる臨床像と原因遺伝子の関係を明らかにする研究である。</p>			
医療技術名	一過性甲状腺機能低下症の分子遺伝学背景の解明 Dualoxidase 2(DUOX2)異常の検索と関連遺伝子の解析	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要(小児科)			
<p>Dualoxidase 2(DUOX2)異常は、一過性甲状腺機能低下症を引き起こす。本遺伝子異常が認められれば、臨床的な予後の推定ができる。その基礎となる遺伝子診断を行う。</p>			
医療技術名	無拘束機器(SD-101)による睡眠時無呼吸症候群の診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>精神疾患を有する場合、これまでの計測機器では測定が困難であった。無拘束の本測定機器を使用することにより、精神疾患においても測定可能となる。</p>			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	向精神薬代謝酵素の遺伝子多型と薬物相互作用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>近年、臨床分子薬理遺伝子学の発達により、薬物代謝酵素多型の分子生物学的解析が進んでおり、薬物代謝の個体差、人種差のメカニズムが解明されつつある。当科ではこれらの所見をふまえて、精神疾患患者の薬物治療に際して、薬物血中濃度の測定およびCYP2D6、CYP2C19などの薬物代謝酵素の遺伝子解析を行い、薬物代謝、臨床効果、薬物相互作用との関連についての研究を進めている。</p>			
医療技術名	高照度光療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>この治療法は、高照度光によって人の生体リズムの位相を人工的に変化させることによって、リズム異常により生じている様々な疾患の治療を行おうとするものである。臨床応用可能な疾患としては、生体リズム異常が原因と考えられている睡眠覚醒リズム障害(睡眠相前進症候群、睡眠相後退症候群、非24時間睡眠覚醒障害)、季節性感情障害、痴呆、せん妄、登校拒否などの精神疾患がある。尚、現在のところ生体リズム異常には薬物療法は有効ではなく、この方法が唯一の治療法である。前年度は、睡眠相後退症候群、季節性感情障害、非季節性感情障害、痴呆などの患者8名に施行し、治療効果を得た。主に朝方、1～2時間の高照度光を浴びる。効果はアクチウオッチなどで評価。睡眠障害、特に概日睡眠、覚醒リズム障害に対して有効とされる治療法。侵襲性が極めて低いことや(対象が低い)、季節型うつ病に有効とされる。</p>			
医療技術名	難治性疼痛に対する電気けいれん療法(ECT)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>通常の鎮痛薬、麻薬系の薬剤、神経ブロック療法などが奏功しない視床の出血、梗塞後に生ずる中枢系疼痛や帯状疱疹後神経痛、カウザルギー、反射性交感神経性ジストロフィーなどのニューロパシクペインを持つ難治性疼痛患者を対象として、ECTによる治療を行う。MRSおよびSPECTを用い難治性疼痛の病態生理とECTの治療機転の解明を行う。ECTは、brief-pulse square waveを発生する機器を用いる。当該研究は、難治性疼痛の治療面における発展に寄与するにみに留まらず、難治性疼痛の病態生理を解明するための新たな知見をもたらすことが期待される。</p>			
医療技術名	乾癬における紫外線・多剤併用療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
<p>乾癬は慢性且つ難治性の炎症性皮膚疾患である。紫外線療法をはじめ種々の内服および外用剤によって治療されているが、単独療法では満足すべき成績をあげることができない。われわれは早期の皮疹改善と寛解維持を目的に、中波長および長波長紫外線療法を主体とし、エトレチナート、タール、ビタミンDやステロイドの外用を加えた多剤併用療法を実施し、優れた治療成績を得ている。</p>			
医療技術名	消化器癌患者輸血後の予後とErythropoietinを用いた自己血輸血	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>消化器癌手術において輸血(同種血)を行うと、肝炎、エイズ、HTLV等の感染症は言うに及ばず、本来宿主がもっている抗腫瘍性の免疫能も抑制をうけることをわれわれは実証しているが、実際に胃癌術後の予後も憎悪する。よって解析の反省から術前Erythropoietinを投与し、造血を計り貯血法、稀釈法による自己血輸血を数年前から開発し、予後及びQOLの向上をはかっている。本来進行癌の患者は軽度貧血を伴うものが多いが、Erythropoietin 併用により、適応の拡大が可能となった。</p>			
医療技術名	腹仙骨式直腸切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>直腸悪性腫瘍のうち、肛門括約筋近傍の腫瘍に対し肛門括約筋を温存しつつ、腫瘍切除を行うことは、排便機能上大変重要である。仙骨側よりアプローチし、直視下に腫瘍と括約筋間の安全な距離を保ちつつ、直腸を切除し、括約筋を温存する術式で、より安全な括約筋温存手術である。</p>			
医療技術名	血液浄化療法による敗血症治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>敗血症はさまざまな治療法が進んだ中でも、未だに多臓器不全へ進む際の大きく重大な合併症として予後も悪い。我々はグラム陰性菌細胞壁から出る内毒素を除去する体外循環材料を開発してきた。(PMX:ポリミキシン固定化繊維カラム)このカラムをEndotoxemia症例に対し、直接血液濾過法(DHP)によって血中のエンドキシンを除去し、重症の敗血症や臓器不全を伴う敗血症治療に対応している。今までは血中のエンドキシンレベルを下げられ、循環動態の改善を確認している。さらに血中のエンドキシン濃度の測定、およびグラム陽性菌としてブドウ球菌(MRSA)が出すToxic Shock Syndrome Toxin-1(TSST-1)の測定法も開発し、血液中の菌を培養して診断するまでもなく、迅速に血中の菌由来毒素を測定して診断することも実用化している。これらの技術により、より早期の敗血症(G(-)、G(+)、真菌血症)診断とエンドキシン血症に対する治療がさらに向上することが期待される。</p>			
医療技術名	骨盤腔腫瘍に対するIVMR下マイクロ波凝固療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>切除困難な骨盤腔腫瘍に対しては、通常行なわれる超音波ガイドは、骨の近傍であり使用困難の部位が多く、IVMRによるナビゲーションを行ないつつ、マイクロ波凝固療法を行なうことで、安全確実な治療効果が期待出来る方法として注目をあびている。</p>			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	体外循環による肝腫瘍切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
肝腫瘍の肝静脈および下大静脈に浸潤した例では、切除不能であるが体外循環下に肝腫瘍を切除できる。体外循環は門脈と下大静脈とBiopumpを使用して腋窩静脈にBy-passして無血下に肝切除術を施行する方法で、良結果が得られている。			
医療技術名	胃癌における術中温熱化学療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
胃癌の再発形式である腹膜播種に対して、現在まで有効な治療法がないのが現状である。我々は胃癌に対して開腹し、胃切除術を施行した後CDDP-5-FU、MMCを混入した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を還流することにより腹膜播種に対する予防、治療を行っている。			
医療技術名	MR環境下肝悪性腫瘍マイクロ波凝固療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
肝悪性腫瘍マイクロ波凝固療法は、超音波ガイド下にはすでに行われている治療法であるが、超音波では検出不能の部位が多く、また、治療途中の画像が確認できないことや、2回目以降の穿刺ができないことなど多くの問題点が挙げられる。MR環境下では、癌の局在に関係なく画像として描出可能であり、治療途中の腫瘍内部の変化も観察可能で、複数回の穿刺も容易であることから、完全な医療が可能になると考えられる。当院に導入されたオープンMR装置は、現在では、本手技を可能にする唯一の装置であり、MR環境下でのリアルタイム画像を利用した本手技は、今後腫瘍の完全な治療をもたらす手技として期待されるものである。			
医療技術名	膵疾患に対する腹腔鏡下膵切除術(膵生検を含む)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
従来から膵病変は確定診断が困難であったり、手術においても過大な侵襲を伴う治療法が行われてきた。しかし、腹腔鏡下手術の手技向上とともに膵疾患に対しても低侵襲で小切開創による腹腔鏡下手術が応用されてきている。当科では、慢性膵炎や診断困難な膵腫瘍に対し腹腔鏡下生検で確定診断を得てきたほか、膵腫瘍や膵浸潤の他臓器腫瘍に対し腹腔鏡下膵切除(膵尾部切除)で良好な結果を得てきた。手技に熟練を要すが、開腹手術と変わらぬ診断・治療成績が得られることから、高度な医療技術として普及することが期待できる。			
医療技術名	関節軟骨欠損に対する軟骨移植術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(整形外科)			
関節軟骨損傷に対する治療は、整形外科領域の古からのテーマであるが、線維性軟骨で修復する方法は報告されているが損傷された関節軟骨を硝子軟骨で修復することは困難であった。1993年我々により最初に報告された複数の自家骨軟骨片のプレスフィット移植(モザイクプラスティ)により関節軟骨の硝子様軟骨での再生がかなり可能になってきた。関節軟骨修復に対するモザイクプラスティは、膝関節の大腿骨顆部辺縁部の比較的荷重のかからない部位から採取した複数の小さな円柱状骨軟骨片により、荷重部位の軟骨欠損を修復する方法である。軟骨採取用の手術器具がすでに市販されていてこれ用いて膝関節を中心に関節軟骨欠損の治療を行っている。本法を関節鏡視下に行うことにより患者さんに侵襲のより小さい手術を工夫して試みている。			
医療技術名	コンピュータ・ナビゲーションを用いた脊椎手術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(整形外科)			
脊椎固定術において、脊髄・椎骨動脈・その他の脊椎周囲臓器を損傷することなく骨固定スクリューを挿入する必要がある場合が多くある。従来の確認方法は術中X線撮影やX線透視で挿入位置や方向を確認するものであるが、このたび新しく、コンピュータ・ナビゲーションによる手術支援装置を用いることで、固定術のインプラント挿入に起因する合併症をより有意に減らすことが可能となっている。術前CT画像を元にしたナビゲーションシステムを用いて、正確さと精密さを要求される頸椎椎弓根スクリューの挿入もより安全に行えるようになった。適応は主として頸椎胸椎の金属インプラントを用いた固定術で、6例に合併症無く安全な手技を施行することができた。今後さらなる応用が見込まれる新技術である。			
医療技術名	MIB-1を用いた脳腫瘍増殖能の計測	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
腫瘍の増殖速度を知ることは、患者の予後を推定し治療法を決定する上で重要な役割をはたすと考えられる。腫瘍の増殖能測定のため、さまざまな方法が考案されているが、従来用いられていた方法はいずれも通常ホルマリン固定パラフィン包埋標本で簡便に行うには多少の問題点があった。最近、通常の手術標本でも増殖中の細胞に出現するKi-67 antigenを染色可能なMIB-1抗体が開発され、比較的容易に腫瘍の増殖能を知ることができるようになった。これを用いて脳腫瘍の診断、予後の予測をおこない、治療法の選択に反映させている。			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	MRSによる認知症の早期診断と知能評価	取扱患者数	75 人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
<p>社会の高齢化に伴い認知症患者の増加が問題となっているが、従来の医療技術ではアルツハイマー病などの原発性変性痴呆患者の早期診断や、その病状の客観的な評価は困難と言われている。当科では以前より通常のMR画像装置をもちいて、脳の N=acetyl aspartate(NAA)の半定量を行ってきた。N=acetyl aspartate(NAA)は proton MRSにより測定可能であるが、その代謝経路や生物学的意義は今のところ明らかでない。この物質は神経細胞にだけ多く含まれており、ある程度の相関関係が認められており、またニューロトランスミッターの前駆体と推測されている。そこで、健常者と認知症患者のNAAを測定し比較することにより、1)アルツハイマー病の早期診断法としての有用性、2)脳の活動性の客観的視標としての有用性、につき検討してきた。この結果、原発性変性痴呆患者では健常者に比べ有意に NAAの低下を認めた。また、正常圧水頭症では痴呆症状があるにもかかわらず有意な NAAの低下は認められず、手術により痴呆症状の改善を認めている。以上のことから、NAA の測定を、原発性変性痴呆症の早期診断や予後推測に用いた。今後はさらに、原発性変性痴呆症の知的レベルや進行度と NAA量との比較や可塑性についても検討する。</p>			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
<p>運動や言語、記憶など高次脳機能を司る領域付近に発生した病変を摘出する際に上記機能障害を最小限とし、機能を温存するために摘出術中に麻酔から覚醒させ機能障害の出現を確認しながら病変を最大限摘出することを可能とする記述である。実施に際してはSEP、MEP、脳波などを活用し各種モニターを使用することで安全に行う。</p>			
医療技術名	術中ICGビデオアンギオグラフィーによる血管、血流評価	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
<p>肝臓、網膜の血管描出に使われるインドシアングリーンを使用し、手術顕微鏡に搭載した特殊フィルターを通して観察することで、脳および脊髄血管手術の際に、簡便かつ安全に術中血管撮影を行い対象血管病変の根治性の向上と手術安全性をえられる手技である。</p>			
医療技術名	液体塞栓物質による頭蓋内、脊髄病変塞栓術	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
<p>脳動静脈奇形、脊髄動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの病変に対して流入血管や病変自体を血管内手術手技利用し、液体塞栓物質によって閉塞させることでその後の外科手術をより安全に行える。</p>			
医療技術名	悪性神経腫に対するテモゾロミド治療効果寄与因子の検討	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
<p>手術中に得られた組織からMGMT因子を測定し、腫瘍に対する抗がん剤の感受性を知ることが出来る。MGMT陽性、陰性によりテモゾロミドの効果が大きく異なるため、その結果を基に選択的に使用する。</p>			
医療技術名	内視鏡下手術法を用いた婦人科疾患の治療	取扱患者数	127 人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
<p>従来、産婦人科では、骨盤内に発生する卵巣腫瘍や、卵管妊娠、或いは子宮内膜症等に対する手術療法は古典的手法、即ち開腹術による事が圧倒的に多かった。しかし近年急速に発達して来た内視鏡(腹腔鏡)及びその関連機器の高性能化に助けられる当科でも内視鏡下手術症例が急激に増加しつつあり、また患者側の要求も次第に高くなっている。方法は、内視鏡及びテレビモニター下に骨盤内を観察しながら鉗子等による剥離、切断などの操作を行うものである。この方法で治療を行った場合、通常の開腹術では退院までおよそ3週間を要するが、内視鏡下の治療ではこれが1週間へと短縮する。</p>			
医療技術名	血漿交換、血液濾過等体外循環を併用した産科 DICに対する集学的治療	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
<p>産科領域における周産期母体死亡の重要な原因に産科 DICがある。これは、突発的に発症するうえ、しばしば重症に陥り母体死亡の主要な原因の一つとなっている。これに対して、体外循環を担当する外科、麻酔科、救急部グループと産婦人科グループが共同してこの難治性重症疾患の治療を行う。</p>			
医療技術名	体外受精胚移植法による難治性不妊症の治療	取扱患者数	122 人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
<p>卵管性不妊、重症子宮内膜症、免疫性不妊、男性因子による不妊などの難治性不妊に対しては、従来の不妊症治療法では非常に成績が悪く、これらに対して体外受精胚移植法を行うことにより格段に治療成績が改善した。本治療は、卵巣刺激を行った後、経膈超音波断層法ガイド下に採卵を行い、媒精、胚培養さらに、子宮腔内に胚を移植する治療法である。</p>			
医療技術名	無心体双妊娠に対する胎内治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
<p>無心体双妊娠に対して、ラジオ波熱凝固を用いた血流遮断術を行うことにより、生存時の心不全を改善することが可能となる。</p>			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	液体パーフルオロカーボンの使用	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(眼科)			
硝子体手術において網膜を復位させる際、一般には気体を用いられているが、気体は注入時に周辺部から網膜を圧迫していくため、網膜中心部に下液が残り、完全に復位させることは困難である。これは気体が水より比重が軽いためである。逆に比重1以上の液体を用いると網膜の中心部から圧迫していくため手術中に完全な復位を得ることが容易である。液体パーフルオロカーボンの比重は水より高くこの目的に適した材料であり、使用も容易で手術終了時に除去することが容易である。われわれは、この材料を網膜剝離、水晶体脱臼、黄斑疾患に使用し、手術時間の短縮、手術成績の向上につなげることができた。			
医療技術名	先天色覚異常および保因者の遺伝子診断	取扱患者数	91人
当該医療技術の概要(眼科)			
先天赤緑色覚異常は日本人の場合、男性の5%に発現する。全国で300万人以上になる勘定である。従来の臨床的色覚検査はすべて自覚的応答による検査であり、他覚的、客観的な診断方法は確立されていない。近年その遺伝子レベルでの異常が明らかにされ、遺伝子による他覚的診断が可能となったかに思われる。また遺伝子を解析することにより保因者の判定もほぼ可能となった。しかし遺伝子レベルでの異常が単一ではないため、DNA診断の信頼性はまだ確立したとはいえない。われわれは精密色覚検査を受診した先天色覚異常の本人及び保因者である母親から同意を得て試料を採取し、DNAレベルでの異常と精密な臨床的色覚検査との対応を調べ、正確な遺伝子診断を目指している。			
医療技術名	網膜疾患に対する抗VEGF剤の硝子体内投与	取扱患者数	130人
当該医療技術の概要(眼科)			
糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症で黄斑浮腫が生じると著明な視力低下を生じる。また、近視性脈絡膜新生血管および特発性脈絡膜新生血管も黄斑下に脈絡膜新生血管を生じ、高度の視力低下をきたす。これらに対する治療法は確立されていない。ただしこれらの黄斑浮腫、新生血管にはVEGF (Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子)が重要な役割を担っていることはわかっており、VEGFに対するヒト型のモノクローナル抗体製剤であるBevacizumabの硝子体投与が有効であったことが多く報告されている。Bevacizumabは2004年2月に結腸癌および直腸癌に対する医薬品としてFDA(食品医薬品局)により認可された。われわれは糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症で黄斑浮腫をきたした症例や、近視性脈絡膜新生血管および特発性脈絡膜新生血管の症例に対し視力の向上、維持を目的としてBevacizumabの硝子体注入を行っている。			
医療技術名	椎間板性腰痛に対する高周波熱凝固法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
難治性の椎間板性腰痛に対し、X線透視下に椎間板内に専用の電極針を挿入し、椎間板後部に入り込んだ神経を、高周波熱凝固法、パルス高周波法で治療し鎮痛を図る。			
医療技術名	下顎枝垂直骨切り術による顎関節機能異常の治療について	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科)			
最近、増加の一途を辿るとされる顎関節機能異常は、これまで顎骨の大きさの時代的変化などの背景因子を含め、さまざまな観点から研究が行われているが、その発症機序についてはいまだ明らかにされておらず、根本治療には至っていない。当科においては、正常な顎の運動と機能を営むには、咀嚼筋、顎骨、顎関節、歯、咬合の調和のとれた関係が必要であるという作業仮設のもと顎顔面の形態あるいは咬合異常と顎関節機能との関連について、一連の研究を行ってきた。このうち顎形成術の1つとして術式の確立している下顎枝垂直骨切り術が顎関節機能異常の改善をもたらすことが、テキサス大学W.H.Bell教授(現ペイラー大学教授)との共同研究などを通じて臨床的に明らかとなった。さらに顎関節機能異常の発症には、関節窩での下顎頭の位置になんらかの関連が存在することも明らかになった。現在、顎骨の形態、咬合状態、およびそれに伴う咀嚼系筋機能が、どのように下顎頭、顎関節部に変化をもたらす顎関節機能に影響を与えるかについて、臨床的に、また生体力学的に検討を加えている。			
医療技術名	血管腫硬化療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科)			
口腔領域における血管腫の治療は施術後の審美性の保存、機能の回復といった観点から外科療法、凍結療法、レーザー療法が困難な症例が多い。当科では口腔領域の血管腫に対してオレイン酸モノエタノールアミンを用いた硬化療法を施行した。すべての症例で病変は著明に縮小し、再発の傾向はなく経過良好である。			
医療技術名	悪性リンパ腫におけるEBウイルス同定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(病理部)			
In situ hybridizationによる造血器疾患(悪性リンパ腫)におけるEBウイルスゲノムの検出を行うことにより、診断を確定する。			
医療技術名	子宮頸癌パピローマウイルス部 In situ hybridizationによるtyping	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(病理部)			
子宮頸部病変の病理検体のParaffin sectionを用いて、パピローマウイルスのtypingをIn situ hybridizationで行い、癌との関連の深いウイルスsubtypeを同定している。			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	サイメガロウィルス感染症のIn situ hybridizationによる固定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(病理部)			
日和見感染症の関連でパラフィンブロックを用いてサイトメガロウィルスの固定をする。悪性のホジキンリンパ腫と同ウィルスのリンパ節感染は通常の病理標本での鑑別が困難であるが、この確定診断に極めて有用である。			
医療技術名	悪性リンパ腫(B細胞型)のκ、λ鎖のIn situ hybridizationによる固定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(病理部)			
B細胞性リンパ腫の免疫グロブリン短鎖のIn situ hybridizationによる固定を行い診断を確定する。良性の炎症性疾患との区別に有効である。			
医療技術名	経鼻内視鏡を用いた直接胆道鏡用オーバーチューブの使用	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
当該医療技術の概要:胆管内を直接内視鏡を観察することは胆道疾患の診断と治療に有用であるが、親子ファイバーなど汎用性に問題ある。経鼻内視鏡は胆道内に挿入可能な細径内視鏡であるが、口腔からのアプローチでは乳頭へは急角度なため挿入不可能であった。新しいオーバーチューブを用いることでこの欠点を解消し、胆管内観察・治療への応用を期待される。			
医療技術名	悪性肝門部狭窄に対するチューブステントの意図的胆管内留置	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
当該医療技術の概要:胆管がんなどによる肝門部狭窄に対しては様々なステント留置が行われるが、チューブ閉塞、感染等が問題である。先端を胆管内の乳頭部奥に留置することで感染や閉塞が生じにくくなることが期待される。			
医療技術名	クローン病狭窄部へのステロイド局注有用性の検討	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
当該医療技術の概要:クローン病腸管合併症による狭窄を解除するため内視鏡的バルーン拡張術が施行されているが、再狭窄のため繰り返し拡張術が必要となっている。局所にステロイドを投与することで線維化を抑え再狭窄予防につながるかを検討する。			
医療技術名	敗血症性DICによる多臓器障害の凝固学的検討と血液浄化法の有効性の検討	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
敗血症は高頻度にDICを併発し、その場合多臓器障害となることが知られている。この病態において、敗血症による凝固活性化によるDICと、これに伴う微小循環障害、さらに高サイトカインあるいはエンドトキシンにより多臓器障害が発症するものと考えられている。よって、この病態に対する治療として、敗血症の原因治療に加え、嚴重なDICの管理と高サイトカインやエンドトキシンに対する対策が必要と思われる。そのためには、迅速かつ詳細な凝固学的検査とサイトカイン除去法が必須である。我々は、本院中央検査部とともにLPIA法による測定法の開発と設定を行い、またサイトカインあるいはエンドトキシン除去に対し、積極的に持続的血液濾過法やエンドトキシン吸着法、さらに我々が開発したPlasma Filtration with Dialysis (PFD)療法を施行し、的確な診断と病態解析、およびその治療を行い、世界標準データである院内死亡率49.6%に対し、38.9%と優秀な生存率を示している。			
医療技術名	人工呼吸器管理下の間接熱量測定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(栄養治療部)			
人工呼吸器管理中の呼吸不全患者に対し、代謝動態を測定し、エネルギー投与量を決定した。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	24 人	・膿疱性乾癬	8 人
・多発性硬化症	22 人	・広範脊柱管狭窄症	14 人
・重症筋無力症	35 人	・原発性胆汁性肝硬変	37 人
・全身性エリテマトーデス	104 人	・重症急性膵炎	4 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	50 人
・再生不良性貧血	23 人	・混合性結合組織病	16 人
・サルコイドーシス	32 人	・原発性免疫不全症候群	0 人
・筋萎縮性側索硬化症	14 人	・特発性間質性肺炎	3 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	45 人	・網膜色素変性症	18 人
・特発性血小板減少性紫斑病	46 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	17 人	・肺動脈性肺高血圧症	2 人
・潰瘍性大腸炎	337 人	・神経線維腫症	10 人
・大動脈炎症候群	9 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	8 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・天疱瘡	16 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0 人
・脊髄小脳変性症	27 人	・ライソゾーム病	3 人
・クローン病	138 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	5 人	・脊髄性筋萎縮症	1 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	59 人	・球脊髄性筋萎縮症	1 人
・アミロイドーシス	6 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2 人
・後縦靭帯骨化症	52 人	・肥大型心筋症	0 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	15 人	・ミトコンドリア病	4 人
・ウェゲナー肉芽腫症	4 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	67 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	19 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	14 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・痔核手術(脱肛を含む。) PPH (K743)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週1回を原則としている。
部 検 の 状 況	部検症例数 35 例 / 部検率 15.0 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
家族性突然死症候群の遺伝的背景の解明	堀江 稔	循環器内科	500	補委 厚生労働科学研究費補助金
進行性心臓伝導障害の病態診断と遺伝子基盤に関する研究	堀江 稔	循環器内科	3,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
QT延長症候群患者における網羅的単一塩基多型分析	堀江 稔	循環器内科	1,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
イオンチャネル病としての遺伝性不整脈の遺伝型・表現型関連の研究	堀江 稔	循環器内科	5,720	補委 文部科学省科学研究費補助金
不整脈に対する臨床病態の解明に関する研究	堀江 稔	循環器内科	2,000	補委 国立循環器病センター
ヒトiPS細胞由来心筋樹立による家族性突然死症候群の病態解明と治療法の確立	堀江 稔	循環器内科	3,000	補委 日本循環器学会
難治性心房細動に対するカテーテル治療の評価法および再発予測因子に関する研究	伊藤 誠	循環器内科	2,860	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト両心房モデル構築を基盤とした慢性心房細動とその治療に関するインシリコ研究	芦原 貴司	循環器内科	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
統合的な人体シミュレーションを目指したバーチャル心臓の機能モジュール化の研究	芦原 貴司	循環器内科	500	補委 文部科学省科学研究費補助金
スパイラル・リエントリーの抜錨による致死性不整脈防止技術の開発	芦原 貴司	循環器内科	300	補委 文部科学省科学研究費補助金
潜在性突然死症候群の顕在化に關与する遺伝的背景と分子病態の解明	伊藤 英樹	循環器内科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
PEAL Study (PITAVASTATIN HEART FAILURE Study) HMG-CoA還元酵素阻害薬(スタチン)の慢性心不全改善効果一多施設共同無作為割付試験一	藤井 応理	循環器内科	1件につき100	補委 興和創薬株式会社
突発性間質性肺炎CT画像の自動解析法の開発とその検証	中野 恭幸	呼吸器内科	1,690	補委 文部科学省科学研究費補助金
計算解剖モデルに基づく診断支援	中野 恭幸	呼吸器内科	650	補委 文部科学省科学研究費補助金
MIF-ASおよびMIF-siRNA/SPG複合体による腸炎抑制効果に対する研究	藤山 佳秀	消化器内科	5,000	補委 受託研究費 医薬基盤研究所
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	藤山 佳秀	消化器内科	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
原因不明小腸潰瘍症の実態把握、疾患概念、疫学、治療体系の確立に関する研究	藤山 佳秀	消化器内科	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
大腸筋線維芽細胞由来IL-24を標的とした新たなIBD治療法開発の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	1,950	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小腸粘膜上皮の脂肪酸直接刺激によるクローン病免疫応答異常の解明	辻川 知之	消化器内科	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
循環器疾患等総合研究事業：「2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期予後改善のための前向き研究(JDC Study)」	柏木 厚典	糖尿病内分泌内科	300	補委 厚生労働科学研究費補助金
果糖応答性転写調節因子群の同定、その分子機構と病態的意義	柏木 厚典	糖尿病内分泌内科	1,950	補委 文部科学省科学研究費補助金
環境応答遺伝子としてのTFAP2Bのメタボリックシンドローム発症における役割	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,690	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト肝SREBP-1c遺伝子発現を調節する新しい核蛋白の同定とその機能解析	西尾 善彦	糖尿病内分泌内科	1,820	補委 文部科学省科学研究費補助金
新規糖尿病性腎症治療標的分子としてのuPARの基礎的・臨床的意義の解明	荒木 信一	糖尿病内分泌内科	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
メタボリックシンドロームにおける脂肪細胞肥大化分子AP2βの役割	卯木 智	糖尿病内分泌内科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
PGC-1βを介した翻訳後修飾による新たな果糖応答性肝脂質合成調節機構の解明	永井 義夫	糖尿病内分泌内科	1,365	補委 文部科学省科学研究費補助金
サート1を介した新規インスリン抵抗性治療薬の探索	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
神経細胞特異的ターゲットイングHDAを用いた神経因性疼痛への遺伝子治療法の開発	寺島 智也	神経内科	1,417	補委 文部科学省科学研究費補助金
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	前川 聡	糖尿病内分泌内科	960	補委 J-DOIT3(糖尿病合併症を抑制するための介入試験)
メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現(新規2型糖尿病関連遺伝子の同定と機能解析)	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,500	補委 文部科学省研究振興局長
運動による骨格筋トレーニング効果・糖代謝改善効果におけるmicroRNA(miRNA)の役割	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,500	補委 日本イーライリリー教育・研究助成金
エネルギー代謝における骨格筋VLDL受容体(very low density lipoprotein receptor)の役割	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	2,000	補委 上原記念生命科学財団平成21年度研究奨励金
治療過程管理を導入した横紋筋肉腫に対する新しいグループスタディの展開	太田 茂	小児科	390	補委 文部科学省科学研究費補助金
再発小児固形腫瘍に対する塩酸ノギテカンとイホスファミドの第I/II相臨床試験	多賀 崇	小児科	500	補委 厚生労働科学研究費補助金
Congenital dyserythropoietic anemia(CDA)の効果的診断法の確立に関する研究	多賀 崇	小児科	500	補委 厚生労働科学研究費補助金
一過性甲状腺機能低下症の分子遺伝学背景の解明 Dualoxidase 2(DUOX2)異常の検索と関連遺伝子の解析	丸尾 良浩	小児科	500	補委 財団法人森永奉仕会研究奨励金
甲状腺ホルモン合成障害による先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的診断法確立のための研究	丸尾 良浩	小児科	1,000	補委 財団法人母子健康協会小児医学研究助成

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
B1-B細胞の抑制性機能に関する検討	藤本 徳毅	皮膚科	2,340	補委 文部科学省科学研究費補助金
体腔鏡手術ロボティクス技術の開発研究	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	37,932	補委 文部科学省都市工リア産学官連携促進事業
汎用MRを使う生体内部構造透視画像下内視鏡手術システムの開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	11,453	補委 独立行政法人科学技術振興機構研究成果最適展開支援事業
リンパ管浮腫に対する細胞移植療法の臨床応用	塩見 尚礼	消化器外科 乳腺・一般外科	2,340	補委 文部科学省科学研究費補助金
直腸肛門奇形マウスを用いた器官培養による分子生物学的解析及び胎仔治療への応用	久保田 良浩	消化器外科 乳腺・一般外科	2,860	補委 文部科学省科学研究費補助金
医療資源ベクトル解析法に関する研究	来見 良誠	消化器外科 乳腺・一般外科	800	補委 文部科学省科学研究費補助金
超臨場感遠隔協働のためのインタラティブ柔軟物シュミュレーションと可視触化の研究	来見 良誠	消化器外科 乳腺・一般外科	1,040	補委 文部科学省科学研究費補助金
リアルタイムMRIナビゲーションを利用した乳癌低侵襲治療システムの確立	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
アディポネクチンによる新しい敗血症の治療法の開発	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	目片 英治	消化器外科 乳腺・一般外科	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
MR対応ファイバースコープによる内視鏡外科手術画像誘導システムの開発	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科	1,200	補委 独立行政法人科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト滋賀
トリプレックス使用調査	浅井 徹	心臓血管外科	228	補委 テルモ株式会社
献血グロベニン使用調査	松林 景二	心臓血管外科	571	補委 日本製薬株式会社
HIF-1を標的とした癌分子標的治療法の開発に関する基礎研究	寺本 晃治	呼吸器外科	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
脊椎靭帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科	500	補委 厚生労働科学研究費補助金
人為的な骨芽細胞増殖の誘導による骨脆弱性疾患、骨欠損に対する新規治療法の開発	森 幹士	整形外科	1,000	補委 整形災害外科学研究助成財団助成金
カニクイザルにおける関節軟骨欠損の自然修復に関する組織学的検討とコラーゲンゲルと骨髄間葉系幹細胞を用いた組織工学的手法による関節軟骨修復の有用性の検討	三村 朋大	整形外科	2,000	補委 学長裁量経費
軟骨細胞のアポトーシスにおける細胞容積感受性Cl ⁻ チャンネル及び性ホルモン(エストロゲン)の役割の検討	熊谷 康佑	整形外科	2,000	補委 学長裁量経費
未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科	12,500	補委 厚生労働科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
未破裂脳動脈瘤の治療指針と個別意思決定に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科	8,300	補委 国立循環器病センター
脳動脈瘤発生増大破裂の機構解明の新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科	5,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
交通事故による重症頭部外傷後遷延性意識障害患者に対するL-dopa療法の臨床的検討と作用メカニズムの神経基盤の解明	松田 和朗	脳神経外科	1,000	補委 日本損害保険協会
無月経患者に対するローヤルゼリーの月経回復効果の検討	清水 嘉彦	母子・女性診療科	1,450	補委 みつばち研究助成基金
散在性反復配列(利的遺伝子)の脱メチル化による新たなヒト精巣腫瘍発癌モデルの構築	岡本 圭生	泌尿器科	5,330	補委 文部科学省科学研究費補助金
膀胱癌発生におけるVariant cyclin D1bの役割の解明	金 哲将	泌尿器科	1,690	補委 文部科学省科学研究費補助金
網膜錐体サイクリックGMP依存性(CNG)チャネルの機能的解析	村木 早苗	眼科	1,950	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管内皮増殖因子の眼内動態に関する研究	大路 正人	眼科	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
脈絡膜上経網膜電気刺激(STS)法による人工視覚システムの臨床応用	大路 正人	眼科	2,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成	西田 保裕	眼科	2,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
心筋保護を標的とした吸入麻酔薬の最適投与方法	北川 裕利	麻酔科	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
虚血ならびに慢性梗塞における心筋・交換神経・副交感神経バイアビリティの解析	山崎 登自	麻酔科	1,170	補委 文部科学省科学研究費補助金
麻酔薬によるイオンチャンネル機能修飾メカニズムの解明	瀬戸 倫義	麻酔科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト心房カリウムイオンチャンネルにおける麻酔薬の心房細動予防効果	尾崎 将之	麻酔科	780	補委 文部科学省科学研究費補助金
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた慢性疼痛の高次脳機能評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	1,170	補委 文部科学省科学研究費補助金
じん肺健康診断におけるエックス線デジタル撮影画像の活用に関する研究	村田 喜代史	放射線科	10,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
肺野限局性すりガラス様陰影の自然史解明のための前向き研究	村田 喜代史	放射線科	1,200	補委 厚生労働省がん研究助成金
フラットパネルデテクタを用いた胸部座位型超低線量CTの研究	高橋 雅士	放射線科	650	補委 文部科学省科学研究費補助金
極小超磁性体酸化鉄造影ラット脳腫瘍MR像の造影効果に寄与する免疫学的要因の検討	井藤 隆太	放射線科	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
計算解剖モデルに基づく診断支援	高橋 雅士	放射線科	650	補委 文部科学省科学研究費補助金
一般化N次元PCAに基づく人体臓器の統計ボリュームモデリングと診断支援への応用	古川 顕	放射線科	1,040	補委 文部科学省科学研究費補助金
「気腫病変を有する慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者を対象としたOPC-6535の第II相、国際共同、他施設、無作為化、二重盲検、プラセボ対象、並行群間用量検討試験」における胸部CT撮影データの読影評価	村田 喜代史	放射線科	1,495	補委 受託研究費
デキストラン被覆微小超常磁性酸化鉄粒子とマンナンデキストラン被覆微小超常磁性酸化鉄粒子を用いた動脈硬化壁への取り込みの検討；核磁気共鳴画像および組織化学的評価	土屋 桂子	放射線科	2,000	補委 学長裁量経費研究助成金
肝特異性造影剤ガドキセト酸ナトリウムの各種肝障害の質的診断に対する有用性の検討と病理組織学的対比	土屋 桂子	放射線科	1,000	補委 日本医学放射線学会研究助成金
がん抑制遺伝子RB1CC1のシステム破綻による発がん機構とその制御	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	6,400	補委 文部科学省科学研究費補助金
腎細胞癌においてGタンパク共役受容体GPR91が果たす腫瘍生物学劇意義について	川上 亨弘	臨床検査医学講座	1,430	補委 文部科学省科学研究費補助金
消化管及び膵臓カルチノイド腫瘍における神経系中間径線維の発現様式と悪性度の検討	石田 光明	検査部	650	補委 文部科学省科学研究費補助金
過大侵襲時における免疫修飾作用としての超短時間作用型β1遮断薬の心筋に対する効果	辻田 靖之	救急・集中治療部	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
肺血症における高血糖状態の肺不全発症機序	松村 一弘	救急集中治療医学講座	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
肝血流改変と遺伝子導入による全膵機能再生の試み	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,950	補委 文部科学省科学研究費補助金
重症患者における多臓器不全発症のメカニズム解明の試み	田畑 貴久	外科学講座	1,690	補委 文部科学省科学研究費補助金
糸球体上皮細胞のAMPK-ACC経路制御による糖尿病性腎症に対する新たな治療戦略	一色 啓二	血液浄化部	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
間接熱量測定による各種病態の必要エネルギー量の検討	佐々木 雅也	栄養治療部	1,000	補委 日本静脈経腸栄養学会
医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	目片 英治	化学療法部	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
先天性心疾患モデルラットの全胚培養による刺激伝導系の発生及び細胞機能異常の解明	中川 雅生	治験管理センター	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
DNA・血液サンプルおよび臨床情報の収集	中川 雅生	治験管理センター	8,500	補委 文部科学省研究振興局長

小計
17
計
92

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
BBRC 378(3) 589-594 2009	Evaluation of channel function after alteration of amino acid residues at the pore center of KCNQ1 channel.	Irar T et al.	循環器内科
Brit J Pharm 156(2) 377-387 2009	Inhibitory actions of the phosphatidylinositol 3-kinase inhibitor LY294002 on the human Kv1.5 channel.	Wu J et al.	循環器内科
Heart Rhythm 6(7) 1038-1046 2009	Adrenergic regulation of the rapid component of delayed rectifier K ⁺ current: Implications for arrhythmogenesis in LQT2 patients.	Zankov DP et al.	循環器内科
JACC 54(21) 1990 2009	Aorto-Pulmonary artery dissection.	Itoh H et al.	循環器内科
Int J Cardiol 137(1) 83-85 2009	A novel KCNH2 mutation as a modifier for short QT interval.	Itoh H et al.	循環器内科
Heart Rhythm 6(6) 725-730 2009	Endothelin-1 as a predictor of atrial fibrillation recurrence after pulmonary vein isolation.	Nakazawa Y et al.	循環器内科
Human Mutat 30 557-563 2009	Novel KCNE3 mutation reduces repolarizing potassium current and associated with long QT syndrome.	Ohno S et al.	循環器内科
Circ J 73 242-248 2009	Optimal treatment strategy for patients with paroxysmal atrial fibrillation: J-RHYTHM Study.	Ohno S et al.	循環器内科
Circ J 73 1020-1027 2009	Dose-response effects of bepridil in patients with persistent atrial fibrillation monitored with transtelephonic electrocardiograms: a multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind study (J-BAF Study).	Yamashita T et al.	循環器内科
Pflugers Archiv-European Journal of Physiology 458:837-849, 2009	Angiotensin II type 1 receptor mediates partially hyposmotic-induced increase of I _{Ks} current in guinea pig atrium.	Zankov DP	循環器内科
JACC 54(9) : 812-9, 2009	D85N, a KCNE1 polymorphism, is a disease-causing gene variant in long QT syndrome.	Nishio Y et al.	循環器内科
Int J Cardiol 136(3):354-5, 2009	Association between polymorphism of the AGTR1 and cardiovascular events in a Japanese general sample (The Shigaraki Study)	Tamaki S et al.	循環器内科
Int J Cardiol 137:102-7, 2009	Prevalence of atrial fibrillation in the general population of Japan: An analysis based on periodic health examination.	Inoue H et al.	循環器内科
American Journal of Cardiology 104(6):818-22, 2009	Cholesteryl ester transfer protein, coronary calcium and intima-media thickness of the carotid artery in middle-aged Japanese men.	Okamura T et al.	循環器内科
Int Heart J 50(2) : 183-90, 2009	Plasma NT-proBNP as a more reliable biomarker of endogenous cardiac natriuretic peptides Than BNP During carperitide Infusion.	Nishiyama K et al.	循環器内科
Circ J 73(6) : 1067-73, 2009	Effect of carvedilol on plasma adiponectin concentration in patients with chronic heart failure.	Yamaji M et al.	循環器内科
Circulation Arrhythmia and Electrophysiology 2(5):495-503, 2009	Long-term prognosis of probands of Brugada-pattern ST-Elevation in leads VI-V3.	Kamakura S et al.	循環器内科
Circulation Arrhythmia and Electrophysiology 2(5)511-23, 2009	Latent genetic backgrounds and molecular pathogenesis in drug-induced long QT syndrome.	Itoh H et al.	循環器内科

小計

18

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Eur J Heart Fail 11(7) : 653-8, 2009	Relationship between renal function and serum cardiac troponin T in patients with chronic heart failure.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Hypertens Res 32(8) : 670-4, 2009	Long-term effect of efonidipine therapy on plasma aldosterone and left ventricular mass index in patients with essential hypertension.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Circulation 2(6):608-15, 2009	Serum cortisol as a useful predictor of cardiac events in patients with chronic heart failure -the impact of oxidative stress.	Yamaji M et al.	循環器内科
Circ J 73:2270-5, 2009	Relationship between the dose of carvedilol and prognosis in patients with chronic heart failure.	Nishiyama K et al.	循環器内科
Circ J 73(6):1012-3, 2009	Effect of carvedilol on plasma adiponectin level in patients with chronic heart failure.	Yamaji M et al.	循環器内科
Circ J 73:2270-5, 2009.	Dose-dependent prognostic effect of carvedilol in patients with chronic heart failure : Special reference to ranscardiac gradient of norepinephrine .	Nishiyama K et al.	循環器内科
Allergol Int 58(3) 323-331 2009	Radiological approach to asthma and COPD-the role of computed tomography.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Thorax 64(1) 20-25 2009	Body Mass Index in Male Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Correlation with Low Attenuation Areas on CT.	Nakano et al.	呼吸器内科
Proceedings of SPIE. Volume 7258 2009	Bronchial Wall Regions Extraction Algorithm using Multi Slice CT Images.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Thorax 64(11) 944-949 2009	Prediction of the rate of decline in FEV(1) in smokers using quantitative Computed Tomography	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Am J Gastroenterol 104(12) 2990-2995 2009	An open-label prospective randomized multicenter study shows very rapid remission of ulcerative colitis by intensive granulocyte and monocyte adsorptive apheresis as compared with routine weekly treatment.	Sakuraba A et al.	消化器内科
Glin J Gastroenterol [published online 19 Sep 2009]	Terminal restriction fragment polymorphism analyses of fecal microbiota in five siblings including two with ulcerative colitis.	Andoh A et al.	消化器内科
J Immunol 1:183(1) 687-695 2009	Expression of IL-24, an activator of the JAK1/STAT3/SOCS3 cascade, is enhanced in inflammatory bowel disease.	Andoh A et al.	消化器内科
Curr Pharm Des 15(18) 2066-2073 2009	Recent advances in molecular approaches to gut microbiota in inflammatory bowel disease.	Andoh A et al.	消化器内科
Curr Pharm Des 15(18) 2074-2086 2009	The therapeutic impact of manipulating microbiota in inflammatory bowel disease.	Kanauchi O et al.	消化器内科
Intern Med 48(12) 933-937 2009	Alendronate improves low bone mineral density induced by steroid therapy in Crohn's disease.	Tsujikwa T et al.	消化器内科
J Biol Chem 284(26) 17868-17876 2009	Interleukin-32 expression in the pancreas.	Nishida A et al.	消化器内科
Therapeutic Apheresis and Dialysis 13(1) 14-18 2009	Feasibility of five days of consecutive leukocytapheresis for the treatment of ulcerative colitis: A preliminary study.	Tsujikawa T et al.	消化器内科
J Clin Biochem Nutri 46 105-110 2010	Cellobiose prevents the development of dextran sodium sulfate (DSS)-induced experimental colitis.	Nishimura et al.	消化器内科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol Hepatol 25(3) 494-498 2010	Factors affecting the efficacy of cyclosporin A therapy for refractory ulcerative colitis.	Bamba S et al.	消化器内科
Int J Mol Med 25(2) 203-208 2010	Proteus mirabilis sp. Intestinal microflora grow in a dextran sulfate sodium-rich environment.	Araki Y et al.	消化器内科
BMB Rep 42(4) 232-237 2009	SAFB1, an RBMX-binding protein, is a newly identified regulator of hepatic SREBP-1c gene.	Omura Y et al.	糖尿病内分泌内科
Lancet 373(9675) 1607-1614 2009	Voglibose for prevention of type 2 diabetes mellitus: a randomised, double-blind trial in Japanese individuals with impaired glucose tolerance.	Kawamori R et al.	糖尿病内分泌内科
Diabetologia 52(8) 1554-1560 2009	Replication study for the association of new meta-analysis-derived risk loci with susceptibility to type 2 diabetes in 6,244 Japanese individuals.	Omori S et al.	糖尿病内分泌内科
Endocr J 56(6) 767-772 2009	The Onset of Diabetes in Three out of Four Sisters: A Japanese Family with Type 1 Diabetes. A Case Report.	Kishi A et al.	糖尿病内分泌内科 腎臓内科 血液浄化部
Diabetes Metab Res Rev 25(4) 363-369 2009	Higher arterial stiffness, greater peripheral vascular resistance and lower blood flow in lower-leg arteries are associated with long-term hyperglycaemia in type 2 diabetic patients with normal ankle-brachial index.	Suzuki E et al.	糖尿病内分泌内科
J Biochem 146(4) 541-547 2009	Membrane localization of protein-tyrosine phosphatase 1B is essential for its activation of sterol regulatory element-binding protein-1 gene expression and consequent hypertriglyceridaemia.	Ugi S et al.	糖尿病内分泌内科
Mitochondrion 9(5) 306-313 2009	Accumulation of oxidative stress around the stroke-like lesions of MELAS patients.	Katayama Y et al.	神経内科
Am J Cardiol 104(6) 818-822 2009	Cholesteryl ester transfer protein, coronary calcium and intima-media thickness of the carotid artery in middle-aged Japanese men.	Okamura T et al.	糖尿病内分泌内科 腎臓内科 血液浄化部
Diabetes Care 32(11) 2062-2067 2009	Correlation between albuminuria and spontaneous platelet microaggregate formation in type 2 diabetic patients.	Araki S et al.	糖尿病内分泌内科 腎臓内科 血液浄化部
Ther Apher Dial 13(2) 89-94 2009	Target for glycemic control in type 2 diabetic patients on hemodialysis: effects of anemia and erythropoietin injection on hemoglobin A(1c).	Uzu T et al.	腎臓内科 血液浄化部
Diabetes Res Clin Pract 87(2) 228-232 2009	Diabetic Nephropathy Remission and Regression Team Trial in Japan (DNETT-Japan): Rationale and study design.	Shikata K et al.	腎臓内科 血液浄化部
Endocr Metab Immune Disord Drug Targets 10(1) 16-24 2009	SIRT1, a Calorie Restriction Mimetic, in a New Therapeutic Approach for Type 2 Diabetes Mellitus and Diabetic Vascular Complications.	Kume S et al.	腎臓内科 血液浄化部
J Clin Invest 119(7) 2100-2112 2009	DRG-targeted helper-dependent adenoviruses mediate selective gene delivery for therapeutic rescue of sensory neuronopathies in mice.	Terashima T et al.	神経内科
N Engl J Med 362(10) 928 2010	Images in clinical medicine. Red puffy ears	Kawai H	神経内科
Proc Natl Acad Sci USA 106(27) 11288-11293 2009	Sirt1 knockdown in liver decreases basal hepatic glucose production and increases hepatic insulin responsiveness in diabetic rats.	Erion DM et al.	糖尿病内分泌内科
Cell Metab 10(6) 499-506 2009	Prevention of hepatic steatosis and hepatic insulin resistance by knockdown of cAMP response element-binding protein.	Erion DM et al.	糖尿病内分泌内科
Biochem Biophys Res Commun 392(4) 526-532 2010	Transcription factor AP-2beta: a negative regulator of IRS-1 gene expression.	Meng X et al.	糖尿病内分泌内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Clin Invest 120(4) 1043-1055 2010	Calorie restriction enhances cell adaptation to hypoxia through Sirt1-dependent mitochondrial autophagy in mouse aged kidney.	Kume S et al.	腎臓内科 血液浄化部
J Am Soc Nephrol 21(3) 520-526 2010	Cerebral microvascular disease predicts renal failure in type 2 diabetes.	Uzu T et al.	腎臓内科 血液浄化部
Nat Rev Endocrinol 5(7) 367-373 2009	SIRT1 and insulin resistance.	Liang F et al.	腎臓内科
Dev Cell 17(6) 800-810 2009	The E3 ligase TTC3 facilitates ubiquitination and degradation of phosphorylated Akt.	Suizu F et al.	糖尿病内分泌内科
Obesity(Silver Spring) 18(7) 1277-1282 2009	Relation of the expression of transcriptional factor TFAP2B to that of adipokines in subcutaneous and omental adipose tissues.	Ugi S et al.	糖尿病内分泌内科 腎臓内科 血液浄化部
Oncology Reports 23 485-492 2010	Expression of neural stem cell markers in malignant rhabdoid tumor cell lines.	Okuno K et al.	小児科
Jpn Pediatr Hematol 23 244-250 2009	Outcomes of 59 Children with Lymphoblastic Lymphoma Receiving an Intensive All-Type Therapy without Prophylactic Cranial Irradiation-A Report from Japanese Children's Cancer and Leukemia Study Group NHL 960 Trial-	Tsurusawa M et al.	小児科
Blood 114 (12) 2489-2496 2009	Novel prognostic subgroups in childhood t(11q23/MLL)-rearranged acute myeloid leukemia:results of an international retrospective study.	Balgobind B V et al.	小児科
J Pediatr Hematol Oncol 31(2) 121-123 2009	Hereditary spherocytosis in 3 children coexisting with UDP-glucuronyl transferase 1A1 deficiency.	Shiota M et al.	小児科
Pediatric Neurology 42 277-279 2010	Seizure susceptibility due to antihistamines in febrile seizures.	Takano T et al.	小児科
Congenital Anomalies 50 64-67 2010	Congenital polymicrogyria including the perisylvian region in early childhood.	Takano T et al.	小児科
Oncol Rep 23(2) 485-492 2010	Expression of neural stem cell markers in malignant rhabdoid tumor cell lines.	Okuno K et al.	小児科
J Am Acad Dermatol 60(4) 595-603 2009	A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for pemphigus.	Amagai M et al.	皮膚科
Clin Exp Dermatol 35(4) 447-449 2009	Herpes folliculosebaceous ulcer in a patient with chronic lymphocytic leukaemia: an ulcerative variant of herpes folliculitis associated with herpesvirus invasion of folliculosebaceous units in immunocompromised hosts.	Fujimoto N et al.	皮膚科
J Dermatol 36(7) 433-435 2009	Feasibility of COL1A1-PDGFB fusion gene detection to evaluate surgical margins in dermatofibrosarcoma protuberans.	Shirai M et al.	皮膚科
Int J Cancer 125 630-638 2009	OX40 constimulation can abrogate Foxp3+ regulatory T cell-mediated suppression of antitumor immunity.	Kitamura N et al.	消化器外科 乳腺・一般外科
Molecular Medicine Reports 2 615-620 2009	Pre-treatment with cyclophosphamide or OX40(CD134) constimulation targeting regulatory T cell function enhances the anti-tumor immune effect of adoptively transferred CD8+ T cells from wild-type mice	Ueki T et al.	消化器外科 乳腺・一般外科
The American Journal of Surgery 198 340-347 2009	Preliminary clinical experiences of a motorized manipulator for magnetic resonance image-guided microwave coagulation therapy of liver tumors.	Morikawa S et al.	消化器外科 乳腺・一般外科
消化器外科 32(12) 1847-1855 2009	消化管におけるIVR 直腸癌の骨盤内再発に対するIVMRマイクロ波凝固療法	清水 智治 他	消化器外科 乳腺・一般外科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
信学技報 2010	医療応用のための貫通孔を有する超音波円形プローブ	田中 雄介 他	消化器外科 乳腺・一般外科
Innovations 4(6) 334-339 2009	Impact of Previous PCI on hospital Mortality After Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting in Diabetic Patients With Multivessel Disease.	Kinoshita T et al.	心臓血管外科
最新医学 65(2) 59-67 2010	虚血性心疾患	木下 武 他	心臓血管外科
Cancer Res 69(12) 5142-5150 2009	Inhibition of Transforming Growth Factor- β -Mediated Immunosuppression in Tumor-Draining Lymph Nodes Augments Antitumor Responses by Various Immunologic Cell Types.	Fujita T et al.	呼吸器外科
J Pharmacol Sci 109 293-304 2009	Swelling-activated Cl ⁻ current in isolated rabbit articular chondrocytes: inhibition by arachidonic acid.	Isoya E	整形外科
J Physiol 587 3761-3776 2009	Regulatory role of tyrosine phosphorylation in the swelling-activated chloride current in isolated rabbit articular chondrocytes.	Okumura N	整形外科
Acta Orthop 80 724-733 2009	Effect of dynamic compressive loading and its combination with a growth factor on the chondrocytic phenotype of 3-dimensional scaffold-embedded chondrocytes.	Ando K	整形外科
Histol Histopathol 24 235-242 2009	Receptor activator of nuclear factor- κ B ligand (RANKL) stimulates bone-associated tumors through functional RANK expressed on bone-associated cancer cells.	Mori K	整形外科
Life Science 85 477-483 2009	Chondroitin sulfate for the treatment of hip and knee osteoarthritis: Current status and future trends.	Kubo M	整形外科
臨床整形外科 44 143-149 2009	膝骨壊死症に対する骨軟骨移植術	松末 吉隆	整形外科
中部整災誌 52 543-544 2009	高齢者脊髄腫瘍手術例の治療成績についての検討	猿橋 康雄	整形外科
中部整災誌 52 1249-1250 2009	リウマチ頸椎病変に対する後方インストゥルメンテーションの治療成績	猿橋 康雄	整形外科
Laboratory Investigation 89 730-741 2009	Reactive oxygen species are responsible for cerebral aneurysm formation: study using p47phox ^{-/-} mice and the free radical scavenger 'edaravone'.	Aoki T et al.	脳神経外科
Arterioscler Thromb Vasc Biol 29 1080-1086 2009	Reduced Collagen Biosynthesis Is the Hallmark of Cerebral Aneurysm. Contribution of Interleukin-1[β] and Nuclear Factor- κ B.	Aoki T et al.	脳神経外科
Asian Biomedicine 3 229-236 2009	Pathogenesis of cerebral aneurysms: evidence using experimentally induced cerebral aneurysm models.	Fukuda S et al.	脳神経外科
脳卒中の外科 37 40-45 2009	前方循環未破裂脳動脈瘤の手術成績と合併症	野崎 和彦 他	脳神経外科
医学のあゆみ 231 535-540 2009	未破裂脳動脈瘤の最新エビデンスと治療	横井 俊浩 他	脳神経外科
JOHNS 25 3 415-418 2009	アレルギー性鼻炎に対するコブレーションシステムによる下鼻甲介粘膜凝固術の適応と有効性について教えてください	瀬野 悟史 他	耳鼻咽喉科
Rhinology 47 305-309 2009	Endoscopic sinus surgery for the odontogenic maxillary cysts.	Seno S et al.	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Obstet Gynecol Scand 88(7) 824-825 2009	Mutational analysis of the PTEN gene in women with premature ovarian failure.	Shimizu Y et al.	母子・女性診療科
HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 16(2) 121-131 2009	子宮内膜の再生—間葉系幹細胞の役割—	高橋 健太郎 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 1 1-2 2009	異なる培養液による胚発生効率の比較検討	段重儒 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 1 7-9 2009	筋強直性ジストロフィー合併妊娠の1例	山中 章義 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 1 11-13 2009	過長月経で出血性ショックに至った1症例	久保 卓郎 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 1 15-18 2009	骨盤内臓全摘術を必要とした後腹膜原発粘液型脂肪肉腫の1例	高橋 顕雅 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 1 19-22 2009	止血に苦慮し子宮腔上部切断術を余議なくされた分娩後出血の1例	久保 卓郎 他	母子・女性診療科
J Obstet Gynaecol Res 36(1) 115-118 2010	Long-term outcome, including pregnancy rate, recurrence rate and ovarian reserve, after laparoscopic laser ablation surgery in infertile women with endometrioma.	Shimizu Y et al.	母子・女性診療科
Jpn J Endourol ESWL 22(1) 115-119 2009	著名な炎症性ポリープを合併した尿管結石に対する後腹膜鏡下尿管切石、ポリープ切除術の1例	牛田 博 他	泌尿器科
International J Urology 16(5) 481-486 2009	Urinary calreticulin in the diagnosis of bladder urothelial carcinoma.	Kageyama S et al.	泌尿器科
Clinical Nuclear Medicine 34(10) 666-669 2009	Evaluation of Hydronephrosis With Tubeless Cutaneous Ureterostomy Using Tc-99m MAG3 Diuretic Renography.	Kim CJ et al.	泌尿器科
J Histochemistry Cytochemistry 57(12) 2009	The mRAN Distribution of C7orf24, γ -Glutamyl Cyclotransferase, in Rat Tissues.	Oda K et al.	泌尿器科
泌尿紀要 56(11) 25-28 2010	鈍的腎外傷による腎動静脈皮膚瘻の1例	富田 圭司 他	泌尿器科
International J Urology 17(1) 96-98 2010	Primary synovial sarcoma arising from a crossed ectopic kidney with fusion.	Kageyama S et al.	泌尿器科
泌尿器外科 23 459-461 2010	尿路再建の長期アウトカムの検証—小腸利用代用膀胱の長期成績—	加藤 正典 他	泌尿器科
眼科臨床紀要 2(3) 219-223 2009	滋賀医科大学附属病院における15年間の未熟児網膜症の検討	村上 智子 他	眼科
J Human Genetics 54(9) 525-530 2009	Analysis of introns and promoters of L/M visula pigment genes in relation to deutan color-vision deficiency with an array of normal gene orders.	Ueyama H et al.	眼科
あたらしい眼科 26(12) 1697-1701 2009	片眼の強度近視性斜視のMRI所見と術中外眼筋所見	中島 智子 他	眼科
眼科臨床紀要 3(2) 145-148 2010	外傷性下直筋断裂に用いた水平筋全幅移動術	西川 亜季子 他	眼科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Invest Ophthalmol Vis Sci 51(3) 1606-1608 2010	Pharmacokinetics of bevacizumab and its effect on vascular endothelial growth factor after intravitreal injection of hevacizumab in Macaque eyes.	Miyake T et al.	眼科
Ophthalmology 117(1) 93-102 2010	A 27-gauge instrument system for transconjunctival sutureless microincision vitrectomy surgery.	Oshima Y et al.	眼科
Retina 29(8) 1167-1174 2009	Comparison of surgical treatments for central retinal vein occlusion:RON vs cannulation of tissue plasminogen activator into the retinal vein.	Yamamoto T et al.	眼科
Rinsho Byori 57 746-751 2009	A case of ductal adenocarcinoma ex pleomorphic adnoma of the lacrimal gland.	Ishida M et al.	眼科
J Hum Genet 54 525-530 2009	Analysis of introns and promoters of L/M visual pigment genes in relation to dutan color-vision deficiency with an array of normal gene orders.	Ueyama H et al.	眼科
Ophthalmology 116(5) 927-938 2009	Microincision vitrectomy surgery and intravitreal bevacizumab as a surgical adjunct to treat diabetic traction retinal detachment.	Oshima Y et al.	眼科
日本眼科学会雑誌 114(2) 110-115 2010	眼内長期滞留ガス(SF ₆ , C ₃ F ₈) 使用ガイドライン	大路 正人 他	眼科
日本眼科学会雑誌 113(11) 1098-1103 2009	ラニビズマブ(遺伝子組換え)の維持期における再投与ガイドライン	田野 保雄 他	眼科
PAIN RESEARCH 25 37-43 2010	Evaluation of brain metabolite in patients with Complex Regional Pain Syndrome by MR spectroscopy.	Iwashiga N et al.	ペインクリニック科
Osteoporosis Jpn 18(1) 63-65 2010	核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた高齢者の慢性腰部痛における痛みと心の脳機能評価	岩下 成人	ペインクリニック科
Cardiovasc Intervent Radiol 33(1) 135-142 2010	Controlled release and antitumor effect of pluronic F127 mixed with cisplatin in a rabbit model.	Sonoda A et al.	放射線科
J Magn Reson Imagin 30(4) 907-910 2009	Investigation using an HER-2/nue transgenic mouse model of a newly developed MR contrast agent with the effect of an antitumor drug.	Sonoda A et al.	放射線科
Br J Radiol 83(986) 129-132 2010	Does the concomitant intra-arterial injection of asialoerythropoietin and edaravone mitigate ischaemic mucosal damage after acute superior mesenteric artery thromboembolism in a rabbit autologous fibrin clot model?	Sonoda A et al.	放射線科
Br J Radiol 82(981) 711-715 2009	Edaravone prevents bowel infarction after acute superior mesenteric artery thromboembolism using autologous fibrin clots in a rabbit model.	Sonoda A et al.	放射線科
Eur J Radiol 71(3) 570-575 2009	Development of a conjugated gadolinium and cisplatin-gelatin possessing properties as an intravascular contrast agent for MR imaging.	Sonoda A et al.	放射線科
Eur J Radiol 71(3) 519-526 2009	An initial clinical study on the efficacy of cisplatin-releasing gelatin microspheres for metastatic liver tumors.	Nitta N et al.	放射線科
Exp Anim 58(5) 557-561 2009	Basic investigation of vascular interventional radiology (IR) using large rabbits.	Nitta N et al.	放射線科
AJR Am J Roentgenol 192(6) W306-W310 2009	Vascular regeneration by repeated infusions of basic fibroblast growth factor in a rabbit model of hind-limb ischemia.	Seko A et al.	放射線科
Eur Radiol 19 2886-2895 2009	Evaluation of computer-aided detection of lesions in mammograms obtained with a digital phase-contrast mammography system.	Tanaka T et al.	放射線科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cardiovasc Intervent Radiol 33(1) 120-126 2010	Embolization materials made of gelatin: comparison between Gelpart and gelatin microspheres.	Ohta S et al.	放射線科
日本口腔診断学会雑誌 22 113-116 2009	暫間補綴にテンポラリーインプラントを使用した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔インプラント学会雑誌 22 136-140 2009	上顎洞内に迷入したインプラントを内視鏡下鼻内手術により摘出した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 22 279-282 2009	口腔内の衛生不良が誘因と考えられた上顎歯肉疣贅型黄色腫の1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 22 235-238 2009	Platelet Rich Plasma 活性化後における Platelet Derived Micro Particles 濃度の経時的変化について	堤 泰彦 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 22 200-205 2009	滋賀医科大学附属病院におけるインプラント治療野臨床統計学的検討	和田 卓馬 他	歯科口腔外科
日本歯科医療管理学会雑誌 44 163-168 2009	先天性欠損歯に対し、滋賀医科大学医学部附属病院地域連携インプラントシステムを利用して審美的および機能的に回復した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本顎変形症学会雑誌 19 200-204 2009	上顎骨延長法と下顎正中分割を併用した下顎枝垂直骨切り術により治療を行った重度の骨格性III級の1例	西川 正典 他	歯科口腔外科
滋賀医科大学雑誌(電子 ジャーナル版) 23(1) 13-18 2010	インプラント治療により歯列と交合の回復を行った永久歯先天性欠損の4症例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
滋賀医科大学雑誌(電子 ジャーナル版) 23(1) 24-30 2010	滋賀医科大学医学部附属病院地域連携インプラント治療システムについて	齋藤 翔太 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 23(1) 111-115 2010	インプラント埋入シミュレーションを用いた顎骨骨量分析の臨床統計学的検討	堤 泰彦 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 23(1) 93-97 2010	磁性アタッチメントを用いたインプラント義歯により咬合回復を行った1例	山元 貴弘 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 23(1) 93-97 2011	歯根破折歯の矯正的牽引挺出による骨および軟組織増生後に行ったインプラント埋入の1例	中井 徹 他	歯科口腔外科
Oral Disease 15(5) 360-365 2009	An animal Model of intrinsic dental erosion caused by gatro-oesophageal reflux disease.	Higo T et al.	歯科口腔外科
J Cutan Pathol 2009 [Epub ahead of print]	A case of porocarcinoma arising in pigmented hidroacanthoma simplex with multiple lymph node, liver and bone metastases.	Ishida M et al.	検査部
Rinsyo Byori 57(8) 746-751 2009	Case of ductal adenocarcinoma ex pleomorphic adenoma of the lacrimal gland.	Ishida M et al.	検査部
Oncol Rep 22(4) 733-737 2009	Aberrant expression of class III beta-tubulin in basal cell carcinoma of the skin.	Ishida M et al.	検査部
Pathol Int 59(9) 670-675 2009	Multiple IgG4-related sclerosing lesions in the maxillary sinus, parotid gland and nasal septum.	Ishida M et al.	検査部
Int J Cancer 125(4) 861-867 2009	RB1CC1 activates the promoter and expression of RB1 in human cancer.	Ikebuchi K et al.	臨床検査医学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pathol Int 59(4)269-273 2009	IgG4-related inflammatory aneurysm of the aortic arch.	Ishida M et al.	検査部
Oncol Rep 21(1) 113-117 2009	Claudin expressin in rectal well-differentiated endocrine neoplasms (carcinoid tumors).	Ishida M et al.	検査部
Contrib Nephrol 166 142-149 2010	Plasma dia-filtration for severe sepsis.	Eguchi Y	救急集中治療医学講座
Bone 44 785-794 2009	Osteocyte-derived HB-GAM(Pleiotrophin) is associated with bone formation and mechanical loading.	Imai S et al.	リハビリテーション科
J Pharmacol Sci 109 293-304 2009	Swelling-Activated Cl- Current in Isolated Rabbit Articular Chondrocytes: Inhibition by Arachidonic Acid.	Isoya E et al.	リハビリテーション科
Acta Orthop 80 724-733 2009	Effect of dynamic compressive loading and its combination with growth factor on the chondrocytic phenotype of three-dimensional scaffold-embedded chondrocytes.	Andou K et al.	リハビリテーション科
J Physiol 587 3761-3776 2009	Regulatory role of tyrosine phosphorylation in the swelling-activated chloride current in isolated rabbit articular chondrocytes.	Okumura N et al.	リハビリテーション科
心臓 42 764-770 2010	自動対外式除細動による救命後に下肢切断を要した心臓リハビリテーションにより回復した2症例	渋川 武志 他	リハビリテーション科
Spine 35 1279-1284 2010	Clinical output of the rheumatoid cervical spine in patients with mutilating-type joint involvement: For better ADL and longer survival.	Mori K et al.	リハビリテーション科
癌の臨床 55(12) 2009	諸外国のがん対策の現状—成熟したシステムのために カナダ・オンタリオ州のがん医療の質評価	東 尚弘 他	化学療法部
Int J Cancer 125 630-638 2009	OX40 constimulation can abrogate Foxp3+ regulatory T cell-mediated suppression of antitumor immunity.	Kitamura N et al.	化学療法部
Molecular Medicine Reports 2 615-620 2009	Pre-treatment with cyclophosphamide or OX40(CD134) constimulation targeting regulatory T cell function enhances the anti-tumor immune effect of adoptively transferred CD8+ T cells from wild-type mice.	Ueki T et al.	化学療法部
J Clin Biochem Nutr 46 68-72 2010	Energy Metabolism in Japanese Patients with Crohn's Disease.	Sasaki M et al.	栄養治療部
日本小児循環器学会雑誌 25 794-799 2009	滋賀県の学校心臓検診の2(3) 次精密検査医療機関における学校生活管理指導表のチェック第2報-問い合わせの効果-	高橋 良明 他	治験管理センター
日本小児科学会雑誌 113 1677-1686 2009	滋賀県心臓検診におけるBrugada様心電図の診断と管理の問題点	高橋 良明 他	治験管理センター
日本小児科学会雑誌 113 1046-1048 2009	RSウイルス感染予防を必要とする小児に関する全国調査の解析	森 雅亮 他	治験管理センター
日本小児循環器学会雑誌 25 216-220 2009	18および13トリソミーの心表現型・遺伝子型と予後(平成17~19年度研究課題報告)	前田 潤 他	治験管理センター
日本小児循環器学会雑誌 25 221-223 2009	多脾症における重症感染症の疫学(平成17~19年度研究課題報告)	中島 多恵 他	治験管理センター
日本小児循環器学会雑誌 25 224-226 2009	Williams症候群の表現型-心疾患およびその他年齢別に注意すべき症状の頻度(平成17~19年度研究課題報告)	上砂 光裕 他	治験管理センター

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本小児科学会雑誌 113 1292 2009	「降圧剤使用中の授乳について」の提案	板橋 家頭夫 他	治験管理センター
日本小児科学会雑誌 113 1582-1586 2009	アミノ酸調整乳使用中に発症したセレン欠乏による二次性心筋症の1例	古川 央樹 他	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会雑誌 22 67-71 2009	小児治験の参加に対する促進要因と阻害要因-子どもと保護者の治験参加モチベーションに関するアンケート調査結果から-	永縄 由美子 他	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会雑誌 22 72-76 2009	小児治験の参加に対する促進要因と阻害要因(第2報)-乳幼児の保護者を対象とした特性不安の検査結果から-	木下 博子 他	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会雑誌 22 77-82 2009	小児用医薬品開発の現状および小児治験に対する医師の認識-アンケートの結果から-	中川 雅生 他	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会雑誌 22 96-99 2009	小児における医薬品の適応外使用-特に錠剤・カプセル剤の粉碎処方の実態-	藤田 彩子 他	治験管理センター
			小計 6
			計 176

小計

6

計

176

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典		
管理担当者氏名	総務課長 岩阪 豊 薬剤部長 寺田 智祐	医療サービス課長 一井 信吾 放射線部長 村田 喜代史	病院管理課長 大城 雅彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料は外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、入院が原本10年、10年以上経過後は光ファイリング化及び外来が最終来院日より10年間の保存を原則としている。エックス線写真は最終来院日より7年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部	
項規第一号に掲げる一体第一項各号及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理 及び諸記録 の管理 に関する	規則第一条の十一 第一項各号及び第九 条の二十三第一項 第一号に掲げる体 制の確保の状況	院内感染対策のための 指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の実 施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対策 の推進を目的とした改善 のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任者 の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品 の安全使用のための研修 の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順書 の作成及び当該手順書に 基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の収 集その他の医薬品の安全 使用を目的とした改善の ための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用の ための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機 器の安全使用のための研 修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び保 守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器の 安全使用を目的とした改 善のための方策の実施状 況	臨床工学部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 柏木厚典
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 一井信吾
閲覧の求めに応じる場所	病院小会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	64.1%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,816人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,310人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,924人	
	D: 初診の患者の数	25,113人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>医療安全管理に関する基本的な考え方、医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、報告等に基づく医療に係わる安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、医療事故発生時の対応に関する基本方針、患者からの相談に対する基本指針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針等</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <p>発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること 医療事故に係る公的機関への報告及び公表に関すること 医療事故防止対策の企画立案に関すること 安全管理指針の策定に関すること 医療事故防止マニュアルに関すること 医薬品業務手順書の策定に関すること 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。</p> <p>別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」 参照</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>所属職員： 専任(4)名 兼任(15)名</p> <p>活動の主な内容：</p> <p>医療事故防止及び感染予防対策の推進に関すること、医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること、インシデント報告の調査及び分析に関すること、安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること等</p> <p>別添 「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」 「滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程」 参照</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業員研修に関する基本方針 院内感染発生時の対応の基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染予防対策の企画立案に関すること 感染予防対策マニュアルに関すること 感染源の調査に関すること 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること等 感染予防対策の企画立案に関すること。</p> <p>別添「滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程」 「滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規」 参照</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 10 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールへにより、職員に周知している。 感染制御部および感染対策チーム委員会において感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成22年1月6日（水）に講演会を開催。</p> <p>講師：大阪大学医学部附属病院 臨地教授 浅利誠志</p> <p>『抗菌薬を起因菌・感染部位に応じて本当に適正選択していますか？』</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>9月 業務手順書に準じた業務実施状況の確認を行った。</p> <p>12月 業務内容の変更に伴い、手順書の改定を行った（第三版）。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品添付文書情報は、改訂の都度、メーカーに請求して差し替えている。 また、処方オーダーシステム内の添付文書情報も逐次更新している。 (オーダー時、参照可能)</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器の基礎と使用について。 ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプについて。 ・ キャリカポンプの安全使用と基礎知識。 ・ 患者モニターの安全使用と基礎知識。 ・ 電気メス導入時研修。 ・ 放射線装置導入時研修。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器は、メーカーによる定期点検と院内CE点検。 ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプは、メーカーによる定期点検とCE点検。 ・ 除細動器等は、主に院内点検を中心に行っている。 ・ 放射線機器のメーカーによる定期点検と院内点検。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット情報 医薬品医療機器統合機構メール配信 厚生労働省及び近畿厚生局のホームページ ・ メーカーによる情報 各メーカーからの情報提供 ・ 臨床工学技士会ネット情報 	

別添

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

平成16年4月1日制定

平成20年6月1日改正

(設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における医療事故の防止に関する基本的事項を審議するため、医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故防止対策の企画立案に関すること。
- (2) 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。
- (3) 医療事故の防止に係る教育及び研修に関すること。
- (4) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。
- (5) 医薬品業務手順書の作成又は変更に関すること。
- (6) 医療事故防止マニュアルに関すること。
- (7) 医療事故に係る公的機関への報告及び公表等に関すること。
- (8) 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること。
- (9) その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
 - (3) 医療情報部長
 - (4) 感染制御部長
 - (5) 臨床医学講座及び病院の教員（前号に掲げる者を除く。） 若干名
 - (6) 医薬品安全管理責任者
 - (7) 医療機器安全管理責任者
 - (8) 副看護部長 1名
 - (9) ゼネラルリスクマネジャー
 - (10) 病院管理課長
 - (11) その他委員長が必要と認める者
- 2 前項第5号及び第11号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第6号の委員は、看護部長の推薦により病院長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、病院長をもって充て、副委員長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 委員長は、委員会を召集しその議長となる。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

5 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(医療事故調査委員会)

第6条 委員会に、重大な医療事故が発生した場合における事故原因の調査究明及び必要な対応策について審議するため、必要に応じ医療事故調査委員会を置く。

2 医療事故調査委員会について必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、医療安全管理部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程

平成16年4月1日制定

平成22年4月20日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第13条第6項の規定に基づき、医療安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、病院における医療事故の防止による医療の安全性の向上を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 安全管理部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長
- (3) ゼネラルリスクマネジャー（以下「GRM」という。）
- (4) 教員及び医療技術職員 若干名
- (5) 病院管理課長
- (6) 医療サービス課長
- (7) 病院管理課職員 若干名
- (8) その他部長が必要と認める者

2 部長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 部長は、安全管理部の業務を統括する。

4 副部長は、GRMをもって充てる。ただし、部長が、GRMとは別に副部長を必要と認めた場合は、部長の推薦を経て病院長が指名することができる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、あらかじめ部長が指名した副部長がその職務を代行する。

6 GRMは、安全管理部の専任教員及びリスクマネジメント担当の専従の看護師長をもって充てる。

7 GRMは、部長の命を受け安全管理部の所掌業務を処理するほか、リスクマネジャーの指導、医療安全管理委員会との連絡調整を行う。

8 教員及び医療技術職員は、部長の命を受け、安全管理部の業務に従事する。

9 病院管理課職員は、部長の命を受け、安全管理部の事務に従事する。

(業務)

第4条 安全管理部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 医療事故防止の推進に関すること。
- (2) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) インシデント報告の調査及び分析に関すること。
- (4) 医療事故防止に関する事例、対策等の情報収集に関すること。
- (5) 医療事故防止に係る教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (6) 医療事故防止に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。

- (7) 医療事故防止に関するマニュアルの作成に関すること。
- (8) 医療事故防止に関する広報・啓発活動に関すること。
- (9) リスクマネジャーの会議等に関すること。
- (10) その他医療事故防止に関すること。

2 安全管理部は、医療事故等が発生した場合において、「医療事故発生時における対応指針」（平成12年7月19日制定）及び「滋賀医科大学医学部附属病院医療事故等発生時の報告に関する取扱要項」（平成15年5月21日制定）を踏まえ、関係委員会と連携し、対応するものとする。

（インシデント検討会）

第5条 安全管理部に、インシデントの再発防止策を検討するため、インシデント検討会を置く。

2 インシデント検討会の組織及び運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（リスクマネジャー会議）

第6条 安全管理部に、医療事故防止のための検討事項及び具体的な改善計画等の情報を伝達するため、リスクマネジャー会議を置く。

2 リスクマネジャー会議について必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（ワーキンググループ）

第7条 部長が必要と認めたときは、安全管理部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（その他）

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部の運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年5月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月20日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程

平成20年6月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第13条第6項の規定に基づき、感染制御部の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 感染制御部は、病院における院内感染予防対策に関する業務を円滑に遂行することを目的とする。

(組織)

第3条 感染制御部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長 若干名
- (3) インфекションコントロールドクター (ICD) 若干名
- (4) 感染管理看護師 (ICN) 若干名
- (5) 教員及び医療技術職員 若干名
- (6) 病院管理課長及び医療サービス課長

2 部長は、臨床医学講座若しくは病院の教員のうちより病院長が指名する。

3 部長は、感染制御部の業務を統括する。

4 副部長は、病院の関係職員より部長の指名を経て、病院長が委嘱する。ただし、副部長のうち1名は専任感染管理看護師をもって充てる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、その職務を代行する。

6 第1項第3号から第5号までの職員は、部長の命を受け、感染制御部の業務に従事する。

(業務)

第4条 感染制御部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 感染予防対策の推進に関すること。
- (2) 感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。
- (4) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (5) 院内感染発生時における感染の制御及び原因究明に関すること。
- (6) 感染予防対策の教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

(感染対策チーム)

第5条 感染制御部に、具体的な感染予防対策を実施するために、感染対策チームを置く。

2 感染対策チームの組織及び運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

(感染リンクスタッフ)

第6条 感染予防対策の活動を支援するため、各診療科、各病棟及び中央診療部各部に次の各号に掲げる感染リンクスタッフを置く。ただし、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。

- (1) 各診療科の長から推薦された教員
- (2) 各病棟及び中央診療部各部の看護師長から推薦された看護職員
- (3) 中央診療部各部の長から推薦された教員又は医療技術職員

2 感染リンクスタッフは、部長が指名し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員により補充された感染リンクスタッフの任期は、前任者の残任期間とする。

(ワーキンググループ)

第7条 部長が必要と認めたときは、感染制御部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は感染制御部が別に定める。

(事務)

第8条 感染制御部の事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、感染制御部の運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に指名される第6条の感染リンクスタッフの任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程

平成16年4月1日制定

平成22年3月16日改正

(設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における感染予防対策について検討するため、感染予防対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 感染予防対策の企画立案に関すること。
- (2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルに関すること。
- (4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。
- (5) 感染源の調査に関すること。
- (6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
- (3) 副病院長（経営・業務改善・事務総括担当）
- (4) 感染制御部長
- (5) 感染対策チーム長
- (6) 産業医
- (7) 薬剤部長
- (8) 検査部長
- (9) 看護部長
- (10) 専任感染管理看護師
- (11) 病院管理課長
- (12) その他委員長が必要と認める者

2 前項第12号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長3名を置き、委員長は病院長をもって、副委員長は副病院長（総括・リスクマネジメント担当）、副病院長（経営・業務改善・事務総括担当）及び感染制御部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規

平成20年6月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程第5条第2項に基づき、感染対策チーム（以下「ICT」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 ICTの職員は、感染制御部長の命を受け、次の業務を行う。

- (1) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (2) 院内感染発生時における感染の制御に関すること。
- (3) 感染予防対策の教育に関すること。
- (4) 感染予防対策の実施に係る監視及び調査に関すること。
- (5) その他感染予防対策に関すること。

(組織)

第3条 ICTは、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) インфекションコントロールドクター（ICD） 若干名
 - (2) 診療科の教員 若干名
 - (3) 臨床検査技師 若干名
 - (4) 薬剤師 若干名
 - (5) 看護師長及び副看護師長 若干名
 - (6) 感染管理看護師 若干名
 - (7) 病院管理課職員 若干名
 - (8) その他第4条第1項に規定するチーム長が必要と認める者
- 2 前項の職員は、感染制御部長の推薦に基づき、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員により補充された職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(チーム長及び副チーム長)

第4条 ICTにチーム長及び副チーム長を置き、前条第1項に掲げる職員のうちから、チーム長については感染制御部長が、副チーム長についてはチーム長が指名する。

- 2 チーム長は、必要に応じICTを召集し、第2条に掲げる業務を行う。
- 3 副チーム長は、チーム長を補佐し、チーム長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 4 チーム長は、活動状況を必要に応じ感染制御部長に報告するものとする。

(事務)

第5条 ICTの事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、ICTの運営に関し必要な事項は、ICTが別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。
- 2 滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム規程（平成19年4月17日制定）は、廃止する。